

校長室便りについて



子供たちの学校での様子や、日頃私が校長として考えていることなどを保護者や地域の皆様にお伝えしていきたいと考えています。「いろいろな個性や考え方があっても、一緒に楽しみたい、一緒に成し遂げたい、一緒に乗り越えたい…、『手をつなごうよ!』って集まることのよさもあるよね。それを学べるのが学校じゃないかな。」という思いからネーミングしました。私見ですが、私は、赤ちゃんや手をつないでいる人の姿を見ると、幸せな気分になります。ベタベタしようというのではなく、目的を共有し、手を取り合って前に進むことが人の幸せの一つかなと考えています。名前のような親しみのあるお便りづくりに努めてまいります。「書きたい、伝えたい」と筆を取った際に不定期でお届けしたいと思います。

努力の一つとして

校長には、学校教育への理解と協力を仰ぐ皆様に対して、「学校経営方針の説明責任を果たす役割」があります。コロナと変わる校長がその度に違う方針を打ち出すというのは、皆様してみれば(付き合うのが大変)と思われるかもしれませんが、学級担任が保護者の皆様を示す「学級経営方針」と同じです。皆様や子供たちからの信頼あつての教育活動ですので、それを得るために行う努力の一つとしてご理解いただき、お付き合い願えると幸いです。



学校は何を学ぶのか

私の学校経営方針をスローガンのようにまとめたものは、以下のとおりです。

**“「学ぶこと」、「つながること」は喜び”を
実感できる学校**

これからの社会は、情報技術の進化やグローバル化等を背景として、経済や文化等社会のあらゆる分野でのつながりがますます緊密になっていきます。「知識があること」

「情報をもっていること」自体の価値は相対的に下がっていきます。未来を担う子供たちに求められる力は、「自ら課題を発見し、知識や情報を活用しながら、異なる考えをもつ人たちとも協働して取り組む力」です。

学校では、様々な教科・領域を学びますが、知識を得る、良い点数を取ることは、もはやゴールではありません。今からは、一問一答式のクイズを答えるような学習ではなく、多様な考え(答え)があることを理解したり、その中から納得

できる答えを見出したりする学習へ転換していきます。

物事(人・事象)は、すべて目的や意義等によってつながっています。つながりを学ぶことで、物事の本質やそれぞれのもつ役割の大切さについて、考えさせたいと思います。分数の勉強が何とつながっているのか、また、つながっているのか、そこを大切に学習を目指していきます。そして、つながっていくことで、「自分はこう考えるけれど、君は?」「考えが変わっていったよ(もしくは、深まっていったよ)」「自分の考えを発信していきたい」「人の考えも聞いてみたい」という思いを育てる学習を目指していきます。

こうした学習を展開していくことが、「(ともに)生きる、つながることとは学ぶことなんだ」、「学ぶことは喜びなんだ」と考える“人づくり”につながっていくと信じています。

心のゆとり(寛容さ)を

先の経営方針を掲げるにあたり、もう一つの思いがあります。それは、昨今の風潮への憂いから生じたものです。いつの間にか世の中は「批判社会」になってしまいました。コンプライアンスが大切なのは分かりますが、人間は聖人のように強く、潔白に生きられるものなのでしょうか。たった一度の過ちで人生のやり直しもできなくなるのでしょうか。“ギスギスとした余裕のない生き方を強いられるがために、人にも厳しい目を注いでしまう”そんな風潮に自分も染まってきてはいないかと自省しています。寛容な心、豊かな心を子ども達に育みたい、そんな思いを強くします。

地域(家族)とともに



三納地区のよさの一つに、「子供は宝」「地域で育て」の風土が根付いていることが挙げられます。しかし、時代の変容に伴い、「地域と関わりがない」というご家庭が

増えてきているのが現状です。共働きで余裕のない等のご家庭が、孤立して生活している状況は、子ども達の教育に大きな弊害をもたらします。今後は人口減少により、行政による公的サービスがますます行き届かなくなる時代がやってきます。人々のつながり(絆)、そこから生まれる様々な恩恵に気づき、感謝しながら守っていく(貢献していく)こと＝「自助・共助の精神」を、学校も貴重な媒体となって広めていきたいと考えています。

子育ては学校でのみ、家庭でのみ行われるものではありません。言い換えると、いろいろな人の支えによって、我が子は育ててもらっています。(自分が!)と気負うことなく、時に(お互い様よ!),(おかげさまで。)と支え合うことを大切に、「手をつないで」子供たちを育てていけると素敵だなと思っています。校長室便りでは、そうした話題を取り上げてまいります。家族団らんや茶飲ん場のネタにしていただけたらうれしいです。そして、子供たちにたくさん関わっていただきたいと願っています。